

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名 鹿児島県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	鹿児島県吉田町立吉田北中学校					教員数
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	11
学級数	1	1	1	0	3	
生徒数	26	29	28	0	83	

研究の概要

1. 研究主題

主体性を育てる教育活動のあり方
～一人ひとりの学力向上をめざした指導方法の工夫・改善～

2. 内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年・国語，社会，数学，理科，英語，総合的な学習の時間
「個に応じた」指導を，各教科，各学年でどのように進めていくか，研修を深めるため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ どのような指導方法や教材開発を行えば，生徒の学力向上が図れるか。 ○ 研究の見通し(仮説) 生徒の学力向上に関する様々な実態把握を行い，課題点をあげ，個に応じた教材開発や指導方法の工夫改善を進めれば，学力向上が図られるだろう。 ○ 研究内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態把握・学力検査，定期テストの分析 ・家庭学習の状況・家庭学習アンケートの分析 ・教師の取組状況・「個に応じた」指導という視点からの研究授業 ・その他の取組・学習のしおりの作成，朝自習指導など
--------	---

平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ どのような指導方法や教材開発を行えば，生徒の学力向上が図れるか。 ○ 研究の見通し(仮説) 基礎的・基本的な学習内容の定着を図る方法や時間を設定し，教師が個別指導を行えば，基礎的，基本的な内容が定着するのではないか。 地域・家庭との連携を深め，学校外の様々な人材を活用すれば，生徒が意欲的に学習に取り組み，家庭学習の定着を図ることができるのではないか。 指導過程や指導方法を工夫し，「個に応じた」適切な評価を行えば，主体的に学習する生徒を育成することができるのではないか。 ○ 研究内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上・朝自習指導と補充学習 教師の取組・習熟度別授業の実施（英語科）とTT授業の実施（数学） 評価の取組・通知表の変更 その他の取組・多様な選択教科の開設（基礎コースと発展コース） 小中連携・小中合同研修の開催
--------	--

平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ・仮説 15年度の研究をふまえて，16年度のテーマ，仮説をたてる。 ○ 研究内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> ・研究構想の検討，修正 ・研究の実践 ・研究の公開 ・3年次研究のまとめ
--------	--

(3) 研究推進体制

校長-教頭-研究推進委員会-全体研究会 - 学習指導研究班
学習環境研究班
調査統計班
学習指導研究班(柴山 手塚 原口 徳重)
学習環境研究班(岩崎 谷口 永田)
調査統計班(住吉 田中 荘司)

平成15年度の研究成果及び今後の課題

研究成果

- ・ 生徒の基礎学力不足の実態から、小学校高学年程度の漢字と計算、中学校1年生の英語を朝自習の時間に行い、理解不足のところを火曜日の放課後に補充学習としておこなう仕組みをすすめた。
- ・ 標準学力検査や定期テストの結果分析や学力向上についての各教科の取り組みから教科で重点事項等を設け、学期末に評価をしながら継続して指導を行った。
- ・ 「個に応じた」指導を指導の重点におきながら、各教科で研究授業を行うとともに英語科では、全学年で習熟度別授業を、数学科ではT・T授業を実施した。
- ・ 選択教科のコースの多様化の点から、5教科(国語、社会、数学、理科、英語)の選択に、基礎コースと発展コースを設けた。
- ・ 学力の評価を生かした指導の改善から、毎学期末に各教科の評価を検討するとともに、通知表をファイル形式に変更し、通知表、成績表をパソコンでつなぐ校内LANを作った。
- ・ 学校外の様々な人材の活用の点から、総合的な学習の時間に、福祉体験学習を行った。
- ・ 学習環境の整備の点から、生徒会主催の設営コンクールを行うとともに、来週の学習予定表を作成し配布した。

あなたは、朝自習の時間を積極的に取り組んでいますか。(%)

年 度	は い	まあまあ	いいえ
平成14年度	12	36	52
平成15年度	39	57	4

火曜日放課後の補充学習の時間は、学力のつく時間だと思いますか。(%)

思 う	思 わ ない
58	42

今後の課題

- ・ 教師間に学力向上の取組に対する意識の差がみられた。
- ・ 補充学習の時間が必ずしも十分に機能していない。特に学年が上がるにつれて、必要性を感じている生徒が少なくなり、補充学習の内容や指導方法の検討が必要である。
- ・ 家庭との連携が十分になされていない。

学力把握のための学校の取組

- ・ 定期的な学力調査の実施(年1回)
- ・ 生徒の学習時間等の調査(2か月に1回、アンケートを実施)

フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・ 小学校との学力向上等に関する情報交換、意見交換を行った。
- ・ 研究公開の予定
- ・ ホームページを今年度中に開設予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
- 7～9学級 10～12学級
- 13～15学級 16学級
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
- その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科 外国語
- 音楽 美術 技術・家庭 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無